

星空 だより

普及版
2025年 2月

がいけつ!

ぎもん・てんもん

小学4・6年生が理科で習う内容を
中心に、毎月わかりやすく星のお
話をします。楽しく学べて学校の
授業にもとても役に立ちます!

今日は… 16日(日) 15:30

「星の色と明るさ」(小4)

よく観察すると、星の色や明るさは
さまざま。星の色や明るさがそれ
ぞれちがうのはなぜだろう?

観覧料

大人(高校生～) 300円 子ども(3歳～中学生) 100円
団体(20名以上) 大人250円、子ども80円 ※久喜総合文化会館メンバーズクラブ/フレンズ会員の方はご本人様のみ無料
障がい者個人および介護者 1名 個人の料金の50%割引(要当該手帳提示)

イベントの予定

3月番組「ほしぞら質問箱」質問募集中! 2月24日(月・振)まで

星や宇宙に関する質問募集中! 寄せられた質問に3月番組「ほしぞら質問箱」
でお答えします! 1・2月に投映をご覧の皆さまに、質問用紙を差し上げま
す。疑問に思っていること、聞いてみたいこと…どしどしお寄せください!

※質問用紙はプラネタリウムドーム内の「ほしぞら質問箱」に入れてください。
※すべての質問にお答えすることはできませんのであらかじめご了承ください。

春休み特別投映 全天周プラネタリウム『Mitaka! 宇宙の旅』

3月27日(木)～4月7日(月) ①11:00～ ②13:30～ ③15:30～

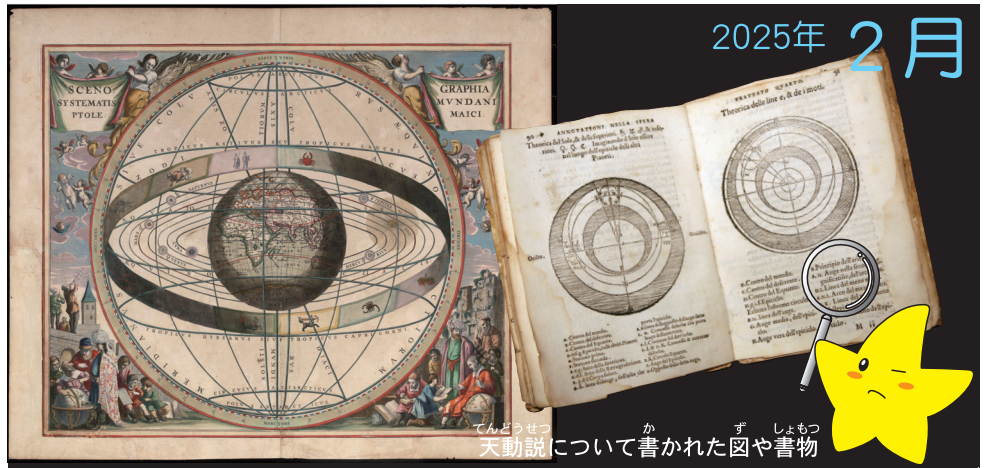
※3月29日(土)、4月5日(土)11:00～はこども投映

※火・金曜日は定休日

ドームいっぱいに広がる迫力の全天周プラネタリウムと
国立天文台開発のデジタル宇宙ビューアー「Mitaka」で
宇宙を旅しよう! 宇宙は…限りなく広がっている!

天体観望会 4月12日(土) 18:30～20:00

申込…会館事務室に電話が直接(3/12(水)～)
観察する星…月、木星等 ※詳細は3月号に掲載します。



今月の投映

今夜の星空+テーマ番組「テ。～天動説と地動説～」
地球は丸く、他の惑星と共に太陽の周りを回っている。今では当たり前と
思われていることも、昔は…? 古代の人々は宇宙をどのように捉えていた
のでしょうか? どうやって正しい宇宙の姿に辿り着いていったのでしょうか?

16日(日) 13:30 は一般投映です。「がいけつ!ぎもん・てんもん」ではありません

土曜11:00 今夜の星空+こども番組「こいぬざのおはなし」

投映日

● 一般向け ★ こども向け ※開始時刻の10分前から入場できます。

	11:00～	13:30～	15:30～	16:30～
平日(月・水・木)				●
土曜日	★	●	●	
日曜日・祝日・春・夏・冬休み	●	●	●	

※予定変更が生じる場合があります。最新情報はホームページ、X(旧ツイッター)等をご確認ください(右下QRコード)。

※11日(火・祝)はプラネタリウムコンサート開催のためお休みです。
※24日(月・振)は11:00～、13:30～、15:30～の3回投映です。

3月の投映内容(予定)

今夜の星空+テーマ番組

「ほしぞら質問箱 Vol.15」

土曜11:00 今夜の星空+
こども番組「おうしざのおはなし」

16日(日) 15:30

がいけつ!ぎもん・てんもん
「宇宙の広がり」(発展学習)

お知らせ

内容変更となる場合が
あります。最新情報は
ホームページで→→→

アカウントをお持ちの方は『X』
(旧ツイッター)もご覧ください!

✕@KUKI_bunka



久喜総合文化会館

〒346-0022 埼玉県久喜市下早見 140
TEL: 0480-21-1799 FAX: 0480-23-6488

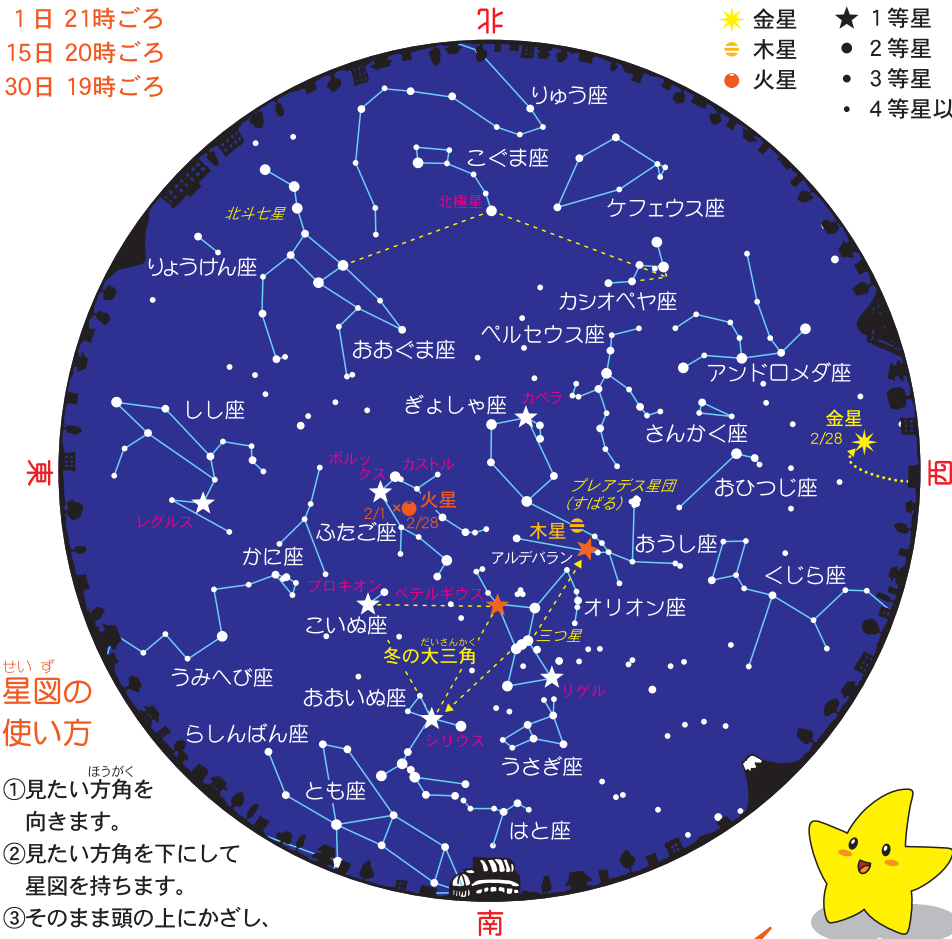


2月の星空

1日 21時ごろ
15日 20時ごろ
30日 19時ごろ

★ 1等星
● 2等星
● 3等星
● 4等星以下

☿ 金星
♃ 木星
♂ 火星



星図の使い方

- ① 見たい方向を向きます。
- ② 見たい方向を下にして星図を持ちます。
- ③ そのまま頭の上にかざし、星空と見くらべます。

プレアデス星団(すばる)の星は
何個見えるかな? チャレンジ!

惑星

西金星…2/15に最大光度(-4.9等級)。
天頂木星…2等級。まだまだ見頃。
天頂火星…1~0等級。1/12の地球最接近後、遠ざかりつつあり次第に暗くなる。

主な1等星

天頂カペラ[ぎょしゃ座]…黄色く明るい。
天頂アルデbaran[おうし座]…赤っぽい色。近くに「すばる」がある。
南ベテルギウス[オリオン座]…赤っぽい。
南リゲル[オリオン座]…ベテルギウスから三つ星を挟み反対側。青白い。
南シリウス[おおいて座]…星座の星で最も明るい(約-1.5等級)。
南東プロキオン[こいて座]…ベテルギウス、シリウスと「冬の大三角」を形作る。
東ポルクス[ふたご座]…ふたごの弟。
東レグルス[しし座]…春の1等星。

日の出

2月1日	6:42
15日	6:28
28日	6:13

日の入

2月1日	17:09
15日	17:23
28日	17:36

プラネタリウムは天動説!?

地球が自転・公転していると知っていても、ふだん地球が動いていると感じる人は少ないでしょう。まして予備知識を持たぬ古代人は、まさか大地が動いているとは考えにくく、ごく自然に、見たままに、自分達は止まっています。太陽や月、星が動いていると考えました。この“見たまま”の天体の動きを表そうとしたのが天動説です。

簡単にいうと天動説では、宇宙の姿を太陽・月・惑星が地球を中心に回り、最も遠くに星座の星が貼り付いた大きな球がある、と考えました。もちろん正しい宇宙の姿ではないため、天体の動きを再現するには様々な工夫・修正が必要で、突き詰めるほど複雑な仕組みが必要になってしまいました。天動説のおかしな点は時代と共に見直され、望遠鏡の発明も手伝って、地球

や他の惑星が太陽を中心に回る、地動説へと移り変わっていったのです。

しかし天動説の考え方は今でも活かされています。地球の周りに仮に大きな球(天球)があると、星座の星々は皆あまりにも遠いので、天球に貼り付いていると考え、地球の赤道を伸ばし天球と交わる所を「天の赤道」、見かけ上太陽が天球を1年かけて移動する通り道を「黄道」とする方法などは天動説的な考え方です。また昔ながらのプラネタリウムは天球(ドーム)上に天体の動きを再現し、止まっている観測者に動いて行く星を見せる、という意味では天動説的な装置とも言えます。

天動説は間違っただけではありませんが、当時の人々が天体の動きをとらえようと真面目に“科学した”結果であり、部分的には現在も役立っているのです。

こよみ

2月1日	月と土星が接近(夕方南西の空)
2日	節分 月と金星が接近(夕方南西の空)
3日	立春
5日	上弦
7日	月と木星が接近(夕方天頂付近)
9~10日	月と火星が接近(9日夕方東~10日未明西の空)
11日	建国記念の日
12日	満月
15日	金星が最大光度(-4.9等級)
18日	雨水
21日	下弦
23日	天皇誕生日
24日	振替休日
28日	新月